

第 74 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2022. 5. 26 石田 菜央

“ダイエット注射”としても話題の GLP-1 作動薬

『オゼンピック皮下注 2mg』

Novo Nordisk 佐藤 裕 様

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、熊山 ともみ、木村 亜希子、鈴木 里菜、吉井智子
石田 菜央、波間 薫、鈴木 亜湖、隅山 穂子、井上 栞里

オゼンピック皮下注は経口血糖降下薬で治療中の 2 型糖尿病患者さんへ更なる改善を目的とした GLP-1 受容体作動薬であり、近年では“ダイエット注射”としても注目されている。これまで、オゼンピック皮下注 SD として 0.25mg、0.5mg、1mg の規格で単回使用ペン型注射器の製剤が販売されていたが、今回新たに 2mg の規格で複数回使用ペン型注射器の製剤が発売されたため、注射の手技や従来の注射器と異なる点について勉強した。

【効能・効果】

2 型糖尿病

【用法・用量】

通常、成人にはセマグルチド（遺伝子組み換え）として週 1 回 0.25mg を維持用量とし、皮下注射する。ただし、週 1 回 0.25mg から開始し、4 週間投与した後、週 1 回 0.5mg に増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週 1 回 0.5mg を 4 週間以上投与しても効果不十分な場合には、週 1 回 1.0mg まで増量することができる。

【禁忌】

・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

- ・糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者（インスリン製剤による速やかな治療が必須となるので、本剤を投与すべきでない。）
- ・重症感染症、手術等の緊急の場合（インスリン製剤による血糖管理が望まれるので、本剤の投与は適さない。）

【副作用】

- ・重大な副作用：低血糖、急性膵炎（頻度不明）
- ・その他の副作用：悪心、嘔吐、便秘、下痢、食欲減退（5%以上）

【特徴】

- ・SU薬やインスリン製剤と併用していなければ、低血糖を起こしにくい。
- ・体重が増えにくい。
- ・満腹感が持続するため、食べ過ぎを防ぐことができる。
- ・ビクトーザやトルリシティと比べて半減期が長いため、作用持続時間が長い。
（ $t_{1/2}$ →ビクトーザ：13時間、トルリシティ：4日、オゼンピック：7日）
- ・インスリンのフレックスタッチ製剤と同じような注射器だが、2回目以降は空打ちが不要。

【従来のSDペンと異なる点】

- ・1箱2本包装ではなく1本包装に変更。
- ・ダイヤルを回して患者自身で用量を設定して使用するため、1本のペンで3つの用量が設定できるようになった。
- ・針が付いているタイプの製剤ではなくなったため、針の処方も必要になる。
- ・皮膚に押し当てるだけでなく、注入ボタンを押して注射しなければいけない。
- ・インスリンのフレックスタッチ製剤と同じような注射器だが、2回目以降は空打ちが不要。

【質疑応答】

- ・針はどの針でも大丈夫？
→ペンニードルプラスなどのA型注射針であればどの針でも使用可能。
- ・なぜ空打ちは初回のみで、2回目以降は不要なのか？

→空打ちは薬液の中に入っている空気を抜くのが目的であり、毎日使用するインスリン製剤においては針を抜かずに注射器に刺しっぱなしにされているケースが多く、そこから空気が入りやすくなってしまふ。しかし、オゼンピックは週に1回の製剤であるため針の抜き忘れ等のリスクが少なく、空気が入ってしまふ心配が少ないため2回目以降は空打ち不要とされている。

- ・経口のリベルサスと比較して副作用の発現頻度は？
→多く見られる副作用としてはどちらも悪心・嘔吐であり、頻度の差はあまりない。また、2週間ほどで副作用の症状が治まる場合がほとんどである。

【考察】

- ・従来のSDペンを使用していた患者は使用方法が変わり、混乱を招くことが考えられるため、使用方法をしっかりと指導することが必要である。
- ・注射器内に空気が入ってしまうのを防ぐためにも、使用後は針を忘れずに外すように指導が必要である。
- ・患者自身でダイヤルを回して用量設定をしなければいけないため、自分の単位数をしっかりと把握してもらい、用量設定を間違えないようにしてもらうことが必要。